

研修だより

No.10

公開研お疲れさまでした！③

今回は、平山先生の授業について、事後研で出た意見をまとめました。ぜひご覧になってください。

高学年ブロック 5年2組平山学級 算数「四角形と三角形の面積」



仮説1について

- 仮説1に関して、このクラスは浸透している。継続すること、他の教科でも使うことが大切。
- OAの道への階段の掲示物が良い。これから学習や学校生活に活かす学びとなっている。
- ?子ども自身の評価と教師の評価のギャップをどうするか
→その子にもよるが、ズバッと「先生は○だと思う」という時もあれば、違う問題をやらせて、自分に気づかせることもある。
- ?自由進度の中での評価の仕方を教えてほしい。
→教室2~3回まわり、記録している。次の時間に生かすために評価をしている。
- 学習だけでなく、なりたい自分に向かって学ぶことができていた。
- 協働して「学びたい」「伝えたい」という思いがたくさん見られた。
- ループリックが子どもの見通しの形成に役立っていた。
- 子どもが見通しをもったり、自己選択したりする上で有効だった。



仮説2について

- △すでに公式を知っている児童がいて、なぜこのような公式になるのかを話すような内容になっていた。知っている子だけの発表会にならないように。
- 個人学習で十分に自分の考え、友達の考えを深めた後、全体ではしっかりと求め方を説明したり、疑問を伝えたりしてさらに深めていたのが素晴らしい。子ども同士でここまでつないで学べるのがすごい！
- ?子ども同士教え合い、学ぶことができていた。先生はどのように子どもにかかわっていたのか。
→本時までに学習に課題がある子を把握しておき、その児童に寄り添い指導する。児童一人ひとりに合った考え方ができるように、複数の選択肢を与えることを意識し、児童に関わっている。



その他

- 自力解決で誰一人学びが止まっていたなかった。
- クラスの雰囲気、安心感。関わり合いが素晴らしい。
- 子どもが楽しそう。学びに向かう雰囲気がある。間違えた子どもへのフォローもよく、安心感がある。
- ?司会が当てる基準や、他者との関わり合いのルールは。
→みんなが話し合いに参加できるように、発言量に偏りが出ないようにしたり、質問で深めたりできるように指名する。
- 「学び合いボード」を見ながら、自分だけではなく、みんなが賢くなれるように関わる。

指導主事より

- ・ラーニングピラミッドからわかること→講義は5%、話し合い・教え合い90%
- ・これから、予測不可能な時代を迎え、多様性も広がる。個別最適な学びの必要性。
- ・子どもの表情が生き生きとしていた。・子どもを信じて委ねることの大切さ。
- ・教科を横断した単元計画が作られていた。子どもたちもそれを意識できる。
- ・他者とのかかわり合いが20分間保証されていたことで、考えが広がり、深まった。
- ・わからない子は聞いたり、手立てを用意したり、先生が関わっていたりする時間。
- ・次につながるふり返り、本時の導入で子どもたちのふり返りから入ったのがよかった。
- ・B基準に到達しない子の見取りを、支援・指導につなげる。
- ・何を学ばせたいかを明確にし、子どもに委ねる時間を増やす。
- ・ゴールから逆算して課題を設定し、探究的な学びを進めてほしい。